

日野鳥発第 16 号
平成 20 年 5 月 26 日

乗鞍自動車利用適正化協議会
会長 土屋 守 様

東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
財団法人 日本野鳥の会
会長 柳生 博

「乗鞍スカイライン」へのマイカー乗り入れ規制の延長について（要望）

平成 15 年度(2003 年度)より実施されてきた「乗鞍スカイライン」へのマイカー規制ですが、今年度が 2 期目の最終年となり、次期の規制方針の見直し作業に入ったと伺っております。

マイカー乗り入れ規制の解除により、ライチョウや高山植物を始めとする貴重な乗鞍岳の自然に多大な影響が生じることが予想されるため、地元の日本野鳥の会岐阜県支部飛騨ブロック等より反対の意見が出されていると聞いております。当財団におきましても、次に述べる理由から、乗鞍スカイラインへのマイカー乗り入れの規制を継続していただくことをお願い申し上げます。

<理由>

1) IBA(Important Bird Area, 重要野鳥生息地)サイトで、かつライチョウの生息地であること

乗鞍岳を含む北アルプスは、国際的な鳥類保護組織 BirdLife International が、日本野鳥の会を含む世界 100 ヶ国以上の加盟団体と共同実施している IBA(Important Bird Area, 重要野鳥生息地)の一つに選定されており、ライチョウ、カヤクグリ、イワヒバリ、ホシガラスなど数多くの野鳥が生息している場所です。中でもライチョウは、国の特別天然記念物にも指定され、環境省のレッドリスト(2006)では絶滅危惧Ⅱ類(VU)にもなっています。

ライチョウの国内生息数は約 3,000 羽で、このうち乗鞍岳での生息数は約 95 羽とされています(岐阜県 2003-2005)。生息数が限られていること、また、今後温暖化による生息地の減少と絶滅の可能性が予測されるなど(中村 2007)、ライチョウを取り巻く環境は厳しい状況となっております。マイカー規制を解除した場合、ライチョウには次の 3 点の影響が予想されます。

①ゴミの増加による捕食者の増加、病原菌の発生

登山者が残すゴミや残飯を求めて、キツネ等の捕食者や、カラス類が増加することが考えられます。また、残されたゴミが病原菌の発生源となる可能性があります。

②マイカー登山者によるライチョウとの接点の増加

規制解除により、マイカー登山者の増加が予想されます。登山者とライチョウとの接点が増えることで、繁殖の攪乱やペットの持ち込みによるライチョウへの感染症の発生、また、一部の心ない登山者によるライチョウへの危害も考えられます。

③ロードキルの増加

マイカーの交通量が増加し、ライチョウのロードキルの可能性が高まります。

乗鞍岳のライチョウ個体群が置かれている状況はとても厳しく、これまで以上に、個体群へ影響を与える要因については取り除いていく必要があります。

2) 貴重な高山植物への影響が予想されること

乗鞍岳は、コマクサ、ヨツバシオガマ、イワギキョウなどの貴重な高山植物の自生地として有名です。マイカー登山者の増加により、自生地への立ち入りによる踏圧や心無い一部の登山者による盗掘が生じる可能性があります。

高山植物は、当該地域の自然の大きな魅力の一つであり、毎年多くの観光客が高山植物の観察に訪れています。高山植物への悪影響は、単なる自然資源の減少にとどまらず、観光地としての魅力の消失ともなり大きなマイナスです。

3) 高山独特の生態系保護のための大気汚染防止、CO₂ 削減

乗鞍岳周辺には長い地球の歴史の中で培われてきた、かけがえのない高山独特の生態系が維持されています。マイカーの増加により、排気ガスによる樹木の枯死、高山植物の減少が進むことが予想され、野鳥、その他の生き物の生息場所や餌資源が失われることにもなります。

当該地域では、平成 15 年度からのマイカー規制の実施により、貴重な自然が維持されるとともに、他地域では見られない特徴ある自然の残された場所としての認識が深まりつつあります。これまで醸成されてきた自然保護の観点とともに、地域に、未永く自然を主体とした観光を定着させ、適正な利用をしつつリピーターを増やすというエコツーリズムの観点からも、マイカー規制を継続していただくこと、併せて大気汚染と CO₂削減を進めるうえで、低公害車の積極的な導入についてもご検討くださるようお願い申し上げます。

以上